

平成 28 年 3 月 9 日

関係者各位

公益社団法人日本山岳協会 選手強化委員会

## 2016年 スポーツライミング国際競技会派遣選手選考基準 ～ユース日本代表～

### 1 権限の所在及び決定の方法

国際競技会に派遣するユース日本代表選手を選考する最終的な権限は公益社団法人日本山岳協会にある。派遣選手を選考は、以下の基準に基づき、選手強化委員会が推薦し、常任理事会で承認することによって決定する。

### 2 派遣選手団の編成方針

- (1) ユース日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
- (2) オリンピック競技への追加を見据え、将来オリンピックで活躍が期待できる選手を選手強化委員会が推薦し、複数種目において国際経験を積ませるための選考ができる。
- (3) 行動規範を遵守し、日本山岳協会を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

### 3 各国際大会における選手選考について

#### (1) 世界ユース選手権（2016年11月 中国）

##### ① 選考方針

単種目での優勝を目指し、派遣選手団の編成方針に基づき、次世代の日本代表選手団として十分に活躍が期待できるユース選手の中から選考する。

##### ② 派遣可能選手(IFSC ルールより抜粋)

- a. 直近の成年またはユースの世界選手権または大陸別選手権の**優勝者**（優勝種目で登録のこと）を派遣することができる。
- b. 上の者とは別に各種目について各国で**最大4名**までの選手を派遣することができる。

##### ③ 選考基準

- a. 基本的には全ての選手の選考を国内選考大会の結果をもとに行う。ただし、特別な理由（ワールドカップ等の上位大会、やむを得ない事由）があり、国内大会へ参加できない場合はその限りではない。

- b. 直近の成年またはユースの世界選手権で優勝し、IFSC 枠保持選手として選考する。
  - c. 各選考大会において各カテゴリーの優勝者から選考する（最大1名ずつ）。
  - d. 優勝者以外の選考については、直近の選考大会を優先に、各大会におけるユース日本代表選手団の規模（総数）を決定した上で、各カテゴリーの上位の成績を収めた選手から優先的に選考する（各カテゴリー最大4名ずつ）。
- ※IFSC 枠保持選手の扱いは、選考方針・選考基準（上記 a.b.c.d.）およびタイトルをとった大会に照らし合わせた後に決定する。

#### ④ 選考方法

選考基準を満たしている選手を、選考方針及び派遣選手団の編成方針に従って選手強化委員会で協議し、ユース日本代表選手団の選考を行う。

##### ④-1. ボルダリング（男子・女子合わせて16名 程度）

- ・5月 全日本クライミングユース選手権大会ボルダリング競技大会（各カテゴリーの優勝者）

\*優勝者以外の残りの枠の選考は、以下の大会での成績を考慮し、優先的に決定する。

- ・ユース B ; 全日本クライミングユース選手権ボルダリング競技大会
- ・ユース A およびジュニア ;
  - A. 世界選手権（準決勝・決勝進出者）
  - B. 直近のワールドカップ（準決勝・決勝進出者）
  - C. 全日本クライミングユース選手権大会

##### ④-2. リード（リード 男子・女子合わせて16名 程度）

- ・3月 全日本クライミングユース選手権リード競技大会（各カテゴリーの優勝者）
- ・8月 JOC ジュニアオリンピックカップ（各カテゴリーの優勝者）

\*優勝者以外の残りの枠の選考は、以下の大会での成績を考慮し、優先的に決定する。

- ・ユース B ; JOC ジュニアオリンピックカップの総合順位
- ・ユース A およびジュニア ;
  - A. 世界選手権（準決勝・決勝進出者）
  - B. JOC ジュニアオリンピックカップの総合順位  
（ジャパンカップおよび直近のワールドカップの成績も参考にする）

##### ④-3. スピード

現在、国内で選考となる大会がないため、ボルダリングおよびリードで選考され

た選手の中で希望者は兼任で出場可能とする。ただし、スケジュールを見て短種目／複合種目を判断する。

⑤ 決定予定時期

2016年9月中旬

(2) アジアユース選手権大会(2016年10月 イラン)

① 選考方針

世界ユース選手権大会と同様

② 派遣可能選手(IFSCルールより抜粋)

世界ユース選手権大会と同様

③ 選考基準

世界ユース選手権大会と同様

④ 選考方法

・ボルダリング：5月 全日本クライミングユース選手権大会ボルダリング競技大会(各カテゴリーの優勝者)

・リード：8月 JOCジュニアオリンピックカップ(各カテゴリーの優勝者)

※ユース日本選手団の派遣の可能性は未定。

※競技以外の治安等安全上の問題が相当懸念されるため、渡航国の情勢を確認しながら、選手強化委員会で派遣の可否を決定する。

※各種目・各カテゴリー最大1名程度(ただし、ユースCが開催された場合でもユースCの派遣は行わない)。

※十分な引率スタッフが確保できない場合は、規模の縮小もあり得る。

4 その他

IFSCルールが変更した場合には、選手選考基準も準じて改定をおこなう。